

重点プロジェクト評価シート

登録者(課長)名 [1] 企画政策課長 柴原洋

【施策の概要】

施策名 [3]		施策の目標 [8]		主管課(関係課) [2]		
やすらぎグリーンプロジェクト		人々のふれあいを演出するみどりと花の空間を創生します。		企画政策課(産業振興課、みどり公園課、環境保全課)		
概要	施策のコンセプト [33]		評価の視点 [34]		説明	
	「ほっとやすらぐまち」をめざして、みどりの保全・活用・創出によって、人が憩い、集いあえる空間・場を演出します。		みどりと花の活用		<ul style="list-style-type: none"> みどりと花に親しめるような公園の整備を進め、市民間の交流を推進します。 体験農園を設置して、農業体験と農業者との交流を推進します。 市民がみどりに親しめるよう、市内の散策ルートを設定します。 	
			みどりと花の創出		<ul style="list-style-type: none"> 歩いて楽しめる散歩道を整備・ネットワーク化します。 苗木、花の種子等を配布します。 	
			みどりと花の保全・活用・創出のためのしくみづくり		<ul style="list-style-type: none"> 市民の緑化への関心を喚起・向上するため、花いっぱい運動を推進します。 公園ボランティア、援農ボランティアの育成・活用を進めます。 自然・みどり等の保全・活用・創出に関する情報提供や情報交流を進めます。 	
			市民意識調査の満足度・重要度の領域		<ul style="list-style-type: none"> 「公園・緑地などの保全・活用」「農地・屋敷林などの保全・活用」「公園の整備や道路・公共施設の緑化推進」を本プロジェクトの市民意識の領域とします。 	
	留意すべき点(都などの制度の変化・その他制約条件・社会環境の変化) [9]					
・農地法が平成21年に改正され、農地が現在及び将来における国民・地域の貴重な資源であるとされました。						

【施策の成果】

						年度	19	20	21	22	23	24
成果指標 [12]	指標 1	事業名	市民意識調査	指標名	「緑と水辺などの自然環境」について、10年前と比較した現在の状況	実績値	32.9%	32.9%	32.9%	38.6%		
		説明	10年前と比較した現在の状況について、「良くなっている、やや良くなっている」の割合の合計を算出しています。									
	指標 2	事業名	体験農園の開設支援	指標名	体験農園区画数(環1-1で再掲)	実績値	186	263	263			
		説明	西東京市では団塊の世代の地域活動への参加などを背景に農業体験に対するニーズが高まっており、体験農園を設置することで市内にみどりを増やすとともに農地の保全に取り組むことが重要です。									
	指標 3	事業名	援農ボランティアの活用	指標名	援農ボランティア認定者数	実績値	39人	47人	54人			
		説明	援農ボランティア事業の経験を通じて、市民の意識向上を図ります。これらの市民の農業体験を通じて、都市農業に対する継続的な関心や活動へとつなげることが必要です。									
	指標 4	事業名	公園ボランティア拡充事業	指標名	公園ボランティア登録会員数(環1-1で再掲)	実績値	748	698	749			
		説明	公園ボランティア事業の経験を通じてみどりの管理を行うことで市民の意識向上を図り、身近なみどりに対する継続的な関心や活動へとつなげることが必要です。									
	指標 5	事業名	公園広場整備事業	指標名	整備された公園・広場の数(環1-2で再掲)	実績値	0箇所	0箇所	2箇所			
		説明	市民が最も身近にみどりを体感できる場所である公園・広場を整備することにより、みどりの空間の創出を図ります。計画期間内に整備を行った、公園・広場の箇所数で把握します。									

【市民意見】 [13]

平成19年度		平成22年度		平成24年度		各年次の市民意識調査で、本プロジェクトの市民意識調査の領域の「満足、やや満足」「重要、やや重要」の合計値として算出しています。
満足度(%)	35.7%	満足度(%)	36.1%	満足度(%)		
満足度(平均ポイント)	-0.01	満足度(平均ポイント)	0.02	満足度(平均ポイント)		
重要度(%)	79.6%	重要度(%)	77.6%	重要度(%)		
重要度(平均ポイント)	1.19	重要度(平均ポイント)	1.17	重要度(平均ポイント)		

【一次評価】

検証項目	施策の成果と課題	施策成果の目標達成状況 [14] <input type="checkbox"/> まだ未達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 目標を大きく上回る	
		意識調査での満足度 [15] <input type="checkbox"/> 平均を下回る <input type="checkbox"/> ほぼ平均 <input checked="" type="checkbox"/> 平均を上回る	
施策の成果と課題 (取組成果や目標達成に向けた課題、成果向上・コスト削減策等) [16]		・「みどりや花の活用」では、体験農園・市民農園は利用者が多く、区画数も増加していることで都市農業・都市農地の保全に対する貢献度は高いと考えられますが、新たな用地(農地)の確保が困難な状況にあることが課題となっています。また、東京都が進める石神井川の河川改修により散策路や親水広場が整備されていますが、整備範囲はまだごく一部の地域に限られているのが現状です。 ・「みどりや花の創出」では、平成20年度から21年度の2年間で、合併特別債を活用した芝久保三丁目ふれあい公園と北宮ノ脇公園を整備するとともに、石川島播磨重工業跡地開発では人にやさしいまちづくり条例と地区計画を適用し、おおぞら公園を整備しました。しかし平成23年度以降は合併特別債が終了するため、「公園・緑地の適正配置方針」に基づく空白地の解消を図るための財源的な裏づけが弱まること大きな課題となります。 ・「みどりや花の保全・活用・創出のためのしくみづくり」では、花いっぱい運動の推進や、公園ボランティア・援農ボランティアの育成・活用を進めてきましたが、公園ボランティアの高齢化による人材の減少や援農ボランティアの受け入れ農家の固定化、また援農ボランティアを必要とする農家と援農ボランティアとのマッチングの充実が課題となっています。	
検証項目	今後の方針	施策の重要性の変化 [17] <input type="checkbox"/> 弱くなっている <input checked="" type="checkbox"/> 以前と同程度 <input type="checkbox"/> 強くなっている	
		意識調査での重要度 [18] <input type="checkbox"/> 平均を下回る <input type="checkbox"/> ほぼ平均 <input checked="" type="checkbox"/> 平均を上回る	
今後の方針 (具体的な事業群や事務事業を示しながら) [19]		・「みどりや花の活用」では、都市農地を保全するために、農地法や都市計画制度の見直しを踏まえ、農協とも連携する中で、体験農園・市民農園の用地確保に努めます。また、石神井川の河川改修や緑地整備に合わせた親水広場化について、早期の実現を東京都に要請していきます。 ・「みどりや花の創出」では、(仮称)みどりの基金の創設を検討し、公園・緑地を確保するための財源的な裏づけを担保するとともに、人にやさしいまちづくり条例や地区計画を引き続き適正に活用することで、民間活力による公園・緑地の整備を推進します。 ・「みどりや花の保全・活用・創出のためのしくみづくり」では、公園ボランティアの高齢化対策として養成講座の充実による若い人材の育成・確保や近隣の学校との連携推進、援農ボランティアの受け入れ先の固定化対策として農協との連携による新たな受け入れ農家の開拓及びマッチングのためのシステムづくり等に努めます。	
総合評価	施策内容の方向性 [20] 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み		
	施策実施コストの方向性 [21] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 効率化		
	施策実施方針 [22]	コストは現状を維持しながら、成果をあげるべき施策領域	

【一次評価後の事情変更等】

説明 [23]	なし
---------	----

【行革本部評価】

総合評価	施策内容の方向性 [20] <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み	
	施策実施コストの方向性 [21] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 効率化	
	判断理由等 [24]	市民意識調査では、現状への満足度が相対的に高い水準にありながら、今後の重要性も相対的に高い位置にあることから、これまでの取組みが一定程度評価されているものの、今後も取組みの継続・拡充が求められていることが読み取れます。 そのため、維持管理系業務の効率化や、施策目標に対する即効性に着目した事業実施コストの再配分などにより、経常的なコストの抑制を図り、将来における「みどりの保全・創出」のための資金の確保に努めていくことが妥当と判断しました。
	施策実施方針 [22]	コストを抑制しながら成果を維持すべき施策領域